

# 鳥取県青少年育成アドバイザー 協議会通信

鳥取県青少年育成アドバイザー通信50号  
鳥取県青少年育成アドバイザー協議会  
発行日 2007. 3. 31  
編集 芳村恵子  
〒680-0002 鳥取市浜坂東1-10-15

「心からのありがとう」

山本 邦彦

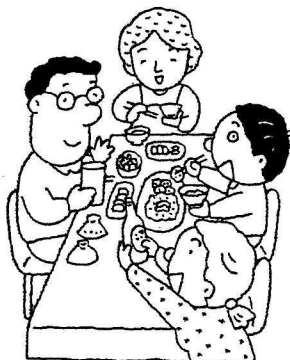
新しい門出の春になりました。進学・進級する子ども達も、卒業して社会人になる若者も、希望に満ちた季節になりました。

この通信も、私たちアドバイザー会員同士の活動状況や情報を交換しあいながら、仲間意識を深め、切磋琢磨して共に向上することをめざして、発行してから今回で50号を迎えることになりました。

編集担当の芳村さんを中心に、協力いただいた会員の皆様に心から感謝申し上げます。これを機にさらなる歴史を積み上げるスタートにしたいものと念じています。

さて、戦後60年以上が経過し、急激な経済成長をとげたものの、物質的に豊かになり過ぎた弊害は日本社会の至る所で顕在化して、解決の困難な多くの問題を生じさせています。特に、この60年間、心よりも物質とお金を最優先にしてきたため、一番大切な人間の精神が混迷し、倫理感がどこかに吹っ飛んでしまっています。深刻な社会問題を生じる根源はここにあると私は信じています。様々な青少年問題も、大人社会の間違った価値観が作り出した日常生活の投影であり、私たち大人の精神文化を正しいあり方に戻さなければ本質的な解決はできないと考えます。

私は、さしあたって、家庭の日常生活の中から変えていくことが必要と考えています。朝の「おはよう」のあいさつからはじまり、様々な基本的生活習慣をしっかりと身につけさせるのが、家庭教育の役割です。食事の前には必ず「あなたの命を



変えさせていただきます」という意味を短くした「いただきます」のことばを感謝の心を込めて言い、家を出るときは「いってきます」、見送る人は必ず「いってらっしゃい」「ただいま」「お帰り」、何気ないことばのようですが、家族の絆と深い愛情の表現がこのことばの中に一杯詰まっています。あいさつは生活の基本であり、この言葉が温かい日常生活をつくる力になります。

その次には、自分のために何かして頂いたとしたら「ありがとう」と感謝の心を込めて言うことです。人間は一人で生きているわけではなく、また、一人で生きていくことはできません。周囲の人は勿論のこと、多くの人々に支えられてこそ、今の自分の生活ができるのです。そのことに早く気づき「ありがとう」と感謝の心を持つことができれば、毎日の過ごし方が変わってきます。

言葉は魔法の力を持っています。「貴方のお蔭です。有難うございます。」という感謝の言葉は、自分が幸せになるだけでなく周囲を明るくします。悪口や誹謗中傷は自分を不幸にするだけでなく周りの雰囲気も壊してしまいます。

明るい笑顔で感謝の言葉を一日に100回言う運動をしましょうよ。きっと皆が幸せになりますから・・・。

今後とも、私たちアドバイザーが心を合わせて、子ども達や若者がふるさとを誇りに感じながら、命を輝かせ個性や能力を充分に発揮してくれよう、微力を尽くして参りたいと思いますので、よろしくお願ひします。

「言葉を交わしてみませか」



東 邦子

私は、若い頃から老人会に籍をおいていま

す。(今では、れっきとした老人年齢ですが…)先日、その老人会から小学校の1～2年生と昔の遊びをする交流会に出席して貰いたいという呼びかけがありました。考えてみると、昔の遊びといってもできるのは、男の子のような『こままわし』くらいしか私にはできないのですが、もちろん二つ返事でOKをしました。

冬だというのに暖かい、良く晴れた日でした。小学校の多目的室に入ると、「ひがしくにこさんで～す」と先生が名前を呼ばれて、中から二人の可愛い女の子が出てきてくれました。「こんにちは!よろしく」と声をかけましたが、恥ずかしいのか「ニコッ」としただけで、無言。1年生のA子ちゃんと2年生のBちゃんです。すごろく・お手玉・こままわし・メンコ・あやとり等それぞれコーナーが作ってあり、三人グループで自由に巡るという趣向でした。

遊びをしていく中で、1年生のA子ちゃんは、段々と言葉が出て「おばあちゃんの番だよ」「こうするんだよ」と言ってくれるようになりましたが、2年生のBちゃんは性格がおとなしいのか、なかなか声に出して言葉が出ません。「この会が終わるまでには、Bちゃんと話したい」と、私の中でムラムラとおせっかいの芽が出てきました。「お家はどの辺?」「きょうだいはい?」「おじいちゃんやおばあちゃんはい?」答えてくれるのは、やはりA子ちゃんでした。『すごろく』は二人とも大好きなようで、何回もやりましたが、勝つのはいつもA子ちゃん。

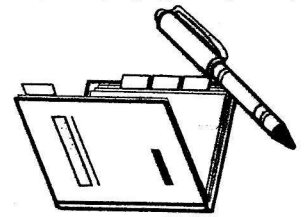
最後は10人程のグループで『かるた取り』をした時、Bちゃんが意外にすごい早ワザで、かるたを何枚も取りました。「Bちゃんすごい!すごい!」嬉しそうな笑顔が返ってきました。交流会も終わり、おみやげを頂き、別れる時、握手をすると

「ありがとうございました」Bちゃんからの嬉しそうな言葉でした。

Bちゃんの話とは、少し違うかもしれませんが、今私が所属するグループでも



「あいさつ運動」を主軸にした運動が繰り返されています。「おはようございます」と声をかけても、声になって返って来ない。下を向いてしまう子、しらんぷりをして通り過ぎる子、ニコッとだけして通る子等々、子どもによってそれぞれです。大人の人からよく聞くのは、「あいさつしても返ってこないのに…」という言葉です。声に出せなくても、心の中では必ず「おはようございます」と言っている…と思って下さい。大人の方が繰り返し『あいさつ』していると、きっといつかその子から「おはようございます」の声が聞こえると思います。



随分前に、日本海新聞の【一日一笑】欄に「マニュアルがあれば、『あいさつ』できますと」

という若者を茶化した川柳が載っていました。マニュアルがあれば出来るのなら、大人がそのマニュアルになれば良いのです。

1～2年生の交流会で出会ったBちゃんも、そのうち私を見かけて「おばあちゃん」って声をかけてくれるのを楽しみにしています。

## 「市民集会」に参加して感じたこと

藤井 久美

2月25日午後、県民文化会館で開催された。

「モラルやマナー・ルールを大切にする風土(人)づくりを進める市民集会」に出かけました。

鳥取市教育委員会、教育改革推進チームが企画しているものです。

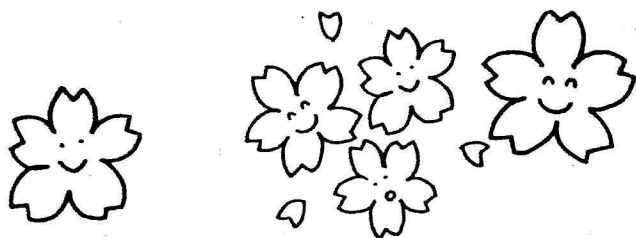
私が参加している、東中校区心豊かな子どもを育てる会、気高町ノーテレビデー運動、高校生さわやかマナーアップ運動、河原中学校生徒会活動、等発表があり、約1時間40分のパネルディスカッション(事例発表)でした。

特に印象に残ったのは、現役高校生のマナ

一に対する男子生徒の意見でした。とてもしつかりしていて、はっきりと一握りの服装・マナーによって迷惑しているのだといたしました。それは、そのために、多くの時間を服装検査にとられてしまうからだということでした。そしてさらに、小さい時からの家庭でのあいさつ、躰けが大切で、急に言われてもできないのでは・・・という意見でした。

「大人が考える・大人が動く・大人が変わる」ことが大切で、よい手本になって欲しいとも言っていました。

その後、中学生の発表も、とてもしつかりしていて頼もしく思いました。この場に出てくる子は代表でよくできる子かもしれませんが、その子達がそれぞれの学校で、生徒会活動で、引っ張ってきた、これからも引っ張っていく子であるというのは、とても力強く感じられ、すがすがしい気持ちでした。



現在、私は孫の送り迎いで、幼稚園に出向いていますが、園児は、はじめはこちらが「おはよう」という風に声かけしても恥ずかしそうにしていますが、そのうち出来るようになり、今では向こうから「ノンちゃんのおばあちゃんだあー」と言ってくれます。すると、親子連れで出会ってもあいさつするので、若いお母さんやお父さんもあいさつしてくれるようになりました。

今、子育てを終えて、孫守りという立場になり、「このごろの若いものは・・・」という前にこちらからの働きかけが大切だと痛感しているこの頃です。

「鳥取県青少年育成アドバイザー通信  
を担当させて頂いて」

芳村 恵子

1994年 「青少年指導者のための通信教育  
16期生」として学びつつ、鳥取県青少年育  
成アドバイザー協議会の一人として仲間入り

させて頂きました。あれから何と12年が過ぎました。

決して多いとは言えない仲間の中でも、休会するという声に寂しさを感じたり、また復帰に喜んだりしながら、少しずつ会員が増えるたびに嬉しく思ってきました。

そして、1997年6月 No.11より、通信を担当させて頂いてきました。私も活動は休会同然の時期があったものの、この通信担当を続けさせて頂くことで、会員の一人として活動させて頂いてきました。

あれから10年、一つの役割としては長くそろそろバトンタッチの時期ではと思いますが、本当に楽しませて頂きました。何より、仲間とつながっているという実感をその都度感じさせて頂いたことと、通信という目に見えるものが出来上がる嬉しさが、頑張るエネルギーになったと思っています。正直言って大変な作業でもあります。スケートの荒川さんがおっしゃっていました。「楽しいから練習をするのではなく、辛い練習の中に楽しみをみつけられるから続けられたのだ」と。同感です。

今回 No.50を発行するに当たり、青少年育成アドバイザーの歴史を感じつつ、以前からの通信をめぐって見ました。それぞれの号に原稿を送ってくださった方々、厳密な校正をしてくださった高橋さん・新川さん、また「届いたよ。有り難う。」と毎回電話を下さった伊藤さん、読んでくださって感想を寄せて頂いた方々に感謝の気持ちでいっぱいです。

本当に有り難うございました。

#### 編集後記

桜のつぼみもようやく膨らんできました。  
いよいよ新しい出発の季節です。

この通信も50号を迎え、ブツイ節目が出来たと嬉しく思います。今後もアドバイザー通信のビジョンを再確認し、さらに仲間との絆づくりに役立つものになったらいいなと思っています。

そろそろ、編集の楽しみを味わってみようと思われる方はありませんか――。

oine.oine.oinechan@fork.ocn.ne.jp  
(wordで入れてください)